

〈解答〉

① 1 四

2 ア

3 八

4 イ

5 〔例〕

思いつきや驚きや理解の修正をきっかけに、常識とは違うものの見方を確立し、常識をより豊かなものにするよう創意工夫する（姿勢）（57字）

配点 各2点 10点満点

〈解説〉

①

1 「飛」の総画数は九画で、真ん中の縦棒は四画目に書く。

2 「起」という漢字には、

① 「おきあがる」↓「起床」「起立」

② 「盛り上がる」「盛んになる」↓「隆起」「奮起」

③ 「事をおこす」「生じさせる」↓「提起」「喚起」

④ 「物事のはじまり」「もと」↓「起点」「起源」

といった意味があり、「起点」の「起」と、ア「起源」の「起」は、④「物事のはじまり」という意味で使われている。

3 文節は、文の途中に「ネ」や「ヨ」を入れて意味が通る、その区切りのこと。「だれもが／普段から／経験して／いる／こと／の／なかに／満ちあふれて／いる」という具合に「ネ」を入れて読んでいくと、八つの文節から成り立っていることがわかる。

4 傍線①の前後の段落にある「思いつきや驚きは、新しい確かな『ものの見方』へのきっかけ」、「きっかけとなった新鮮な『ものの見方』を開発して、だれにでも共有できる形にまでその見方を仕上げていく」といった部分をヒントにして、「確かなものする」が、「思いつきや驚きから得た新鮮な『ものの見方』をきっかけとして、それを確かなものにする」という意味で使われていることを確かめる。

5 傍線②の直前に「これが」とあることから、その直前の一文の「新鮮な驚き、ささいな思いつき、そしてちよつとした理解の修正をきっかけに、常識とは少し違った『ものの方』をしたとき、どこか一面化していた常識そのものがより豊かなものにならないか考えてみる」ことを、「科学を本当に発展させた人々に共通した姿勢」と述べていることがわかる。字数制限に注意してまとめめる。